

日本鉄鋼協会記事

第 6 回 理 事 会

開催日：12月17日。出席者：的場会長ほか 25 名

1. 共同研究会幹事長解嘱，委嘱の件
山岡武君を解嘱し，伊木常世君を委嘱する旨報告があり承認された。
2. 東海支部長交代の件
堤頼雄君に変わり矢島悦郎君に交代した旨報告があり承認された。
3. 湯川記念資金取扱規程制定の件
湯川記念資金 3000 万円の取扱規程ならびに規程制定に伴う関連規程の変更案が承認された。
4. 排煙脱硫試験委員会(仮称)委員長，幹事長委嘱の件

委員長 豊田茂君(新日鉄)，幹事長 萩原興吉君(鋼管)に委嘱することが決定した。

5. 来年度予算検討の件
来年度予算素案が，承認された。
6. 編集委員解嘱・委嘱の件
解嘱 三村 滋君(新日鉄)
委嘱 大石将司君(新日鉄)
以上決定
7. 一般表彰選考委員会委員委嘱の件
(委員長 的場会長) 住友，五弓両副会長，松下，依，今井各委員長，三島，山岡，沢村各前会長，木下理事，田畑専務理事に委嘱することを決定。
8. 次期役員候補選考委員会委員委嘱の件
的場会長，住友，五弓両副会長，松下，依，今井各委員長，松下，三島，山岡，伊藤，沢村，角野，塩沢，佐野，藤本各前会長に委嘱することを決定。

企 画 委 員 会

第 7 回委員会 開催日：12月15日。出席者：依委員長ほか 10 名

1. 来年度予算案の検討
来年度予算素案が承認された。
2. 湯川記念資金事業計画および予算案の件
(1)本部主催の記念講演会，(2)各支部講演会を主体に記念事業をやること，ならびにその予算案が承認された。
3. クリープ委員会組織の改正について
クリープ委員会組織の改正を行ない，来年 3 月より新しい組織にしたがつて運営されることになった。

研 究 委 員 会

第 8 回教育問題小委員会

開催日：12月3日。出席者：佐野小委員長ほか 5 名

当小委員会の今後の進め方について討議したが，委員構成の見直し，さらに教育委員会への昇格などにつき今後検討することになった。

第19回技術講座小委員会

開催日：12月2日。出席者：井上小委員長ほか 6 名

1. 第 11 回西山記念技術講座につき次のように決定した経過報告があつた。

- (1) テーマ：厚板製造技術の最近の進歩
- (2) 期日：2月23・24日
- (3) 会場：東京・農協ホール
- (4) 演題および講師

○最近の厚板製造技術	新日本製鉄	河野耕二君
○海洋開発用鋼板	三菱重工業	岡村健二君
○原子炉用鋼板	パプコック日立	沢田昭二君
○造船用鋼板	日本海事協会	賀来信一君
○圧力容器および低温用鋼板	石川島播磨重工業	栗山良員君

2. 第12回西山記念技術講座の企画

昭和46年5月に「最近の製鋼技術の進歩」について開催することで検討した。

編 集 委 員 会

第10回 和文会誌分科会

開催日：12月3日。出席者：松下主査ほか 11 名

1. 論文審査報告
13 件の報告があり全部掲載可。
2. 勧誘論文について
第80回講演大会より 108 件勧誘した。
3. 依頼原稿について
論文 3 件，技術資料 4 件，展望 1 件を依頼することになった。

第10回欧文会誌分科会 開催日：12月23日。出席者：中村幹事ほか 6 名

1. 5 件の論文について査読報告がなされた。うち 2 件は照会后掲載可，2 件は著者に再修正を依頼，残り 1 件は別の査読者により審査される。
2. 「鉄と鋼」14 号より 6 件の論文につき投稿を勧誘することが決められた。

第 7 回講演大会分科会 開催日：12月11日。出席者：草川主査ほか 22 名

討論会に関する小委員会の報告が田中良平先生よりなされた。

1. 報告講演会について
 - (1) 基共研，共研などクローズドの委員会の研究中間報告などは，報告講演会として取り扱い，講演後会誌に投稿してもらう。
 - (2) 講演時間：3 時間以内
 - (3) 原稿枚数：1 件 4 枚以内
 - (4) 採否は分科会に一任

2. 討論会実施について

1 年 3 カ月の余裕をとつてテーマを決め公募する。

第 4 回出版分科会 開催日：11月27日。出席者：佐藤

主査ほか 13 名

1. 鉄鋼基礎共同研究会溶鋼溶滓部会「溶融鉄合金、溶融スラブの物性値」の出版について斉藤先生より企画目的の説明があり、特別報告書として出版されることが決定。

2. クリープ委員会「金属材料高温強度データ集」出版に関しては、学振で従来シリーズで出していたので問題があり、もう一度クリープ委員会で検討してもらう。

共同研究会

特殊鋼部会

第42回部会 開催日：12月8, 9日. 出席者：中野部会長ほか 99 名

第1日

1. 共通議題「特殊鋼の品質と製造技術に関する研究」について24件の報告が各社より行なわれた。
2. 自由議題として2件報告があり議論された。

第2日

日本特殊鋼，日本冶金，特殊製鋼の工場見学を行なった。

.....

第41回圧延理論分科会 開催日：12月15, 16日. 出席者：藤元主査ほか 47 名

1. 第1日目，新日本製鉄本社で14件の論文について活発な討論を行なった。

今回は圧延ストリップのクラウンコントロールおよびタンデム圧延の動特性・AGCシステムなどを中心に取上げた。また冷間変形抵抗の共同実験を進めるよう検討中である。

2. 第2日目新日本製鉄製品技術研究所の見学会を実施し，引続き幹事会を開催した。

.....

鋼板部会

第31回分塊分科会 開催日：12月1, 2日. 出席者：枝本主査ほか 105 名

大同製鋼(株)知多工場，愛知製鋼(株)知多工場の共催

1. 研究会

(1) 議題

- (a) 操業調査表
- (b) 作業時間調査表
- (c) 品質歩留向上対策
- (d) 省力化と要員削減

上記4議題について条用グループと板用グループにわかれ，活発な討論を第1日目午前から第2日目午後にかけて行なった。

2. 工場見学

第2日目午後大同製鋼(株)知多工場と愛知製鋼(株)知多工場の分塊工場の見学を行なった。

第30回厚板分科会 開催日：11月26, 27日. 出席者：有村主査ほか 81 名

新日本製鉄株式会社名古屋製鉄所で開催した。

1. 研究会

第1日目

午前 工場操業状況の報告

午後 特別テーマ「熱処理設備と操業」の報告
第2日目

午前 工場操業状況グループと「熱処理設備と操業」グループとにわかれ小人数で活発な討論を行なった。

午後 両グループの座長からまとめの報告をうけた後，工場見学を行なった。

2. 工場見学

名古屋製鉄所全般と厚板工場を見学した。

第12回 コールドストリップ分科会 開催日：12月8, 9日. 出席者：堀口主査ほか 94 名

1. 昭和45年4月～9月分の操業状況調査表の中で特記事項の質疑応答を行なった。

2. 酸洗・冷延・電清設備に関する要員調査と省力化の実施状況について，昭和33年6月との比較を行なった。

3. 今回より自由議題を取り入れ，まず酸洗の設備改造，省力化の技術的処理，品質技術などを取り上げた。

4. 川崎製鉄・水島製鉄所の連続熱延工場および冷延工場の見学を行なった。

.....

条鋼部会

第13回大形分科会 開催日：12月3, 4日. 出席者：渡辺主査ほか 71 名

(株)神戸製鋼所尼崎製鉄所と大谷重工業(株)尼崎工場との共催

1. 研究会

(1) 議題

- (a) 工場操業状況
- (b) 品質保証体制について
- (c) ロール管理の現状と問題点
- (d) 自由研究

上記4議題について，事前にまとめた質問状を使って活発な討論が進められた。

2. 工場見学

第2日目

午前 大谷重工業(株)尼崎工場の大形工場の見学を行なった。

午後 (株)神戸製鋼所尼崎製鉄所大形工場の見学を行なった。

第31回 線材分科会

開催日：12月10, 11日. 出席者：富岡主査ほか 50 名

第1日

1. 工場操業状況調査表報告
2. ミスロールの発生場所，原因とその対策
3. シャーの形状，構造および使用箇所についてのアンケート報告
4. 加熱炉の形状，能力，炉材の現状と問題点についてのアンケート報告

第2日

吾嬭製鋼所千葉製造所見学

.....

原子力部会

第7回部会 開催日：12月9日. 出席者：藤木部会長ほか 35 名

1. 各小委員会報告

第6回原子力部会(5月17日)以降の各小委員会における活動状況の報告が行なわれた。また、新設されたシステム小委員会における原子力製鉄のトータルシステムおよび開発スケジュールの検討経過について報告された。

2. 昭和46年度共同研究について

来年度の通産省重要技術研究開発費補助金申請の予定として高温熱交換器および還元ガス製造技術の開発を取り上げるに至った経過、ならびに申請までの事務手続上の予定について事務局から報告が行なわれ、続いて、第4小委員会(熱交換器)、第5小委員会(還元ガス製造)において検討された実験内容について説明が行なわれた。

3. 原子力部会の組織

原子力部会の組織中に、委員長会議が正式に承認された。

第9回第3小委員会 開催日: 12月4日。出席者: 吹田委員長ほか 25名

1. システム小委員会検討経過報告

システム小委員会における原子力製鉄のトータルシステムおよび開発スケジュール検討経過の報告があり、主に第3小委員会で検討すべき高温原子炉の規模について討議した。

2. 製鉄用高温原子炉標価ワーキング・グループの活動状況報告

3. 水素透過について

高温における金属材料の水素透過性および水素除去方法について第4小委員会での検討内容が説明され、原子炉側として水素透過の問題をどのようにとり上げるべきか討議した。

4. 運営方針

システム小委員会と連絡を取りながら、実用規模の高温ガス炉について技術的問題点を抽出すべく、ワーキング・グループの作業を進める。

第8回第5小委員会 開催日: 12月3日。出席者: 国井小委員長ほか 11名

1. 還元ガス製造コスト推算報告書について

メタン、原油、重油などを原料として H_2 、 CO ガス製造コストの推算が了承され、原子力部会へ報告することとなった。

2. 還元ガス製造プロセス研究について

重質油を用いたガス製造プロセスの技術開発の必要性があることに意見が一致し、原子力部会へ提案することになった。

3. システム小委の報告

システム小委での検討状況が報告されるとともに、還元ガス製造技術の開発スケジュールを審議し、システム小委へ答申することとした。

第3回システム小委員会 開催日: 11月26日。出席者: 藤木部会長、池田小委員長ほか 19名

1. 原子力製鉄トータルシステムについて

熱交換器、還元ガス、還元方式の組み合わせなどについてワーキンググループでの検討、結果の報告があり、審議が行なわれた。

今後数種類のシステムにつきエネルギーバランス、マ

テリアルバランスを計算することとした。

2. 開発スケジュール

各部門の開発計画の概要を関連の各小委員会で検討することとした。

**第2回シャフト炉小委
第4回ワーキンググループ** } 合同会議およびシャフト炉
実験見学会 開催日: 11月27日。出席者: 久田小委員長
ほか 28名

1. 第Ⅰ期運転結果報告

H_2 ガスによる還元実験についての結果が報告された。

2. 第Ⅱ期運転計画

H_2 - CO 系ガスによる還元実験の計画ならびにそれに伴う設備の改造などにつき報告された。

3. 予算実績報告

11月末日現在の経理状況は、設備などについてはほぼ計画通りである旨報告された。

会議後稼働中のシャフト炉の見学を行なった。

標準化委員会

ISO 鉄鋼部会

第15回 SC4 分科会 開催日: 12月2日。出席者: 鈴木主査ほか 14名

1. ISO 国際会議のまとめ

10月26日~29日東京で開催された国際会議の報告を作成すべく、各社で担当を決め、討議した。

検討した項目は下記のとおりである。

- 1 耐熱、耐クリープ鋼
- 2 バルブ鋼
- 3 析出硬化型ステンレス鋼
- 4 軸受鋼
- 5 冷間引抜用鋼
- 6 チェーン・フック用鋼

第3回 SC4, SC12 合同分科会 開催日: 12月1日
出席者: 豊田 ISO 鉄鋼部会長ほか 24名

10月19日~29日に東京で開催した ISO/TC 17/SC 12 & SC 4 国際会議の反省会を実施した。本会議には 13カ国より 56名が参加し、鉄鋼製品の国際標準化に関する活発なる討議が行なわれ、本会議を通じて国際交流をさらに深めることができたとの意見に集約された。

第6回 SC9 分科会 開催日: 12月18日。出席者: 安藤主査ほか 8名

10月7日から9日までにパリで開催された第8回 SC 9 国際会議(プリキ)の出張報告があつた。特にプリキコイルの梱包方式について、日本コメントが採用されつつあり、次回までに日本の包装手順を詳しく提出することになった。次回国際会議は昭和46年10月にデュセルドルフで開催されることになっている。

第4回 SC12 分科会 開催日: 12月8日。出席者: 三佐尾主査ほか 3名

昭和45年10月19日~23日に東京で開催された第3回 SC 12 国際会議の報告書の作成を実施した。

データーシート部会

第5回構造用鋼の機械的性質分科会 開催日: 12月1

日. 出席者: 八巻主査ほか 10 名

1. 実験結果中間報告

各社より現在までの試験の進行状況が報告された。

2. 全断面引張り試験の件

田中部会長よりこの件についての試験の意義について説明があり、討議した結果、次のテーマの1つとして検討することにした。

.....

第37回普通鋼分科会 開催日: 12月17日. 出席者: 青木主査ほか 15 名

1. 造船用規格鋼材の統一記号

AB の船体構造用高張力鋼規格改正にともない統一記号の改正を検討したが意見が調整できず次回また打合せすることになった。

2. JIS G 3141 の見直し

日本規格協会より委託されて検討を始めた。今回の見直しではエリクセン試験方法の改正にとまなう範囲のみを対象とすることに決めた。なお次回までエリクセン試験方法の新旧比較試験データを持ち寄ることになった。

.....

第26回鋼管分科会 開催日: 12月17日. 出席者: 桑原主査ほか 17 名

配管用および熱伝達用鋼管 JIS の見直しを行なうため各委員から提出された改正案を集約し、規格ごとに審議することになり、今回は JIS G 3454 (圧力配管用炭素鋼管) および JIS G 3455 (高圧配管用炭素鋼管) について逐条審議が行なわれた。

.....

第5回 JIS ニッケルクロム鉄合金分析方法原案分科会 開催日: 12月17日. 出席者: 神森大彦主査ほか 17 名

1. ニッケルクロム鉄合金中の炭素、けい素、マンガン、りん、いおう定量の共同実験の結果を検討し JIS 原案の一部を修正した。

2. ニッケルクロム鉄合金中のクロム、鉄、銅、アルミニウム、チタン、コバルトの各元素の定量方法について原案作成担当会社より説明をうけ、一般的な討論を行なった。

3. ニッケルクロム鉄合金中のマンガン、銅、アルミニウム、コバルトの原子吸光定量法について、本文の参考として採用することになった。

第6回 JIS ニッケルクロム鉄合金分析方法原案分科会 開催日: 11月26日. 出席者: 神森大彦主査ほか 17 名

1. すでに審議を終了した炭素、けい素、マンガン、りん、いおうの各定量方法をまとめ、正誤表を提出するため検討することになった。

2. この原案の適用範囲は工技院と相談し、JIS G 4901 耐食耐熱超合金棒、JIS G 4902 耐食耐熱超合金板、JIS G 4903 配管用継目無ニッケルクロム鉄合金管、JIS G 4904 熱交換器用継目無ニッケルクロム鉄合金管と明示することになった。

3. クロム、鉄、銅、アルミニウム、チタン、コバルト、の定量方法について JIS 原案を詳細に検討し、一応の案文を得た。

4. ニッケルクロム鉄合金中 3 項記載の元素について

JIS 原案にもとづいて、三菱電機および神戸製鋼提供の試料で共同実験を行なうことになった。

第1回機械試験方法体系調査小委員会 開催日: 11月11日. 出席者: 吉沢小委員長ほか 28 名

1. 本小委員会発足の経緯説明

2. 体系調査の範囲についての総括的な意見の統一をはかった。

3. 鉄鋼, Al, Cu についての機械試験方法の現状調査を実施することを決定。

第2回機械試験方法体系調査小委員会 開催日: 12月8日. 出席者: 吉沢武男小委員長ほか 28 名

1. 鉄鋼, 溶接材料, 銅, アルミニウムおよびアルミニウム合金材料, アルミニウム合金鋳物, ダイカスト製品, 鋳鉄, 銅合金鋳物の機械試験方法が洩れなくリストアップされた。高温および低温でおこなわれる試験がチェックされた。

2. この小委員会できりあげる機械試験方法とは、外部から力を加え、それによる現象を調べる試験と定義づけられた。

3. 今後の方針について一応性質を中心に試験法をリストアップしたので、試験法を中心にまとめ、材料別に JIS の共通規格で十分なもの、不十分なもの、共通規格が必要なものや材料規格があるが共通規格にしてよいものと材料規格のままよいものなどに分類することになった。

クリープ委員会

第3回クリープ試験分科会 開催日: 12月4日. 出席者: 平主査ほか 20 名

1. 第4回共通高温引張り試験結果報告について

関東側取りまとめ小委会(横井幹事)でまとめた結果報告が了承され、「鉄と鋼」に発表するについては、今回および前回ともデータのままではなく編集委の意向もあり、当分科会として結果に対する考察を述べることが了承された。

2. 第5回共通高温引張り試験実施素案について

第5回ではB試験(JIS G 0567-1966の評価)に重点をおきA試験(データ収集の基礎)を併行させ有意差の検定を確保するため参加機関の多いことが望まれ、アンケートにより参加を求めることが了承された。試験材については試験機関相互のパラッキおよび材料の保証の点からスペシメンバンク材を活用することとなった。

3. クリープ破断国際共通試験 10 000 hr 試験結果について

Type 316 鋼の 10 000 hr 試験結果について住友金属、神戸製鋼、日立製作および金材技研から、24 Cr-Mo-V 55 鋼については金材技研からそれぞれ報告があった。BISRA での 3 000 hr の中間報告の取りまとめが遅れているので、国内だけでも取りまとめその有意差を調べることが了承された。

4. スペシメンバンク材の標準試料について

当初の収支計画に比し予定の半分にすぎないので事務局から依頼状とともに申込書を各社にだすことが了承された。

5. クリープ委員会組織改正案について

クリープ委員会は国際的までに発展し、国内的にも基礎が確立したので、困難な問題解決のために設けた運営幹事会の解散と同時に権威者の集りである親委員会を廃止し技術部会を中心としたクリープ委員会とすることが報告された。この改組は翌年3月1日より施行予定で手続を取る事となつた。(運営幹事会報告)

6. 昭和46年度事業計画(案)について

来年度は次のとおり本年度の継続事業のほかにも新規事業を行なうことが了承された。

○継続事業

- (1) 高温強度データ集の収集と発刊
- (2) スペシメンパンク材の評価
- (3) 第5回共通高温引張試験の実施とJISとの評価

○新規事業

- (1) 切欠クリープ破断試験法のJIS原案作成
- (2) 高温リラクゼーション試験法の調査研究とそのJIS原案作成

7. その他

ASMEより平主査宛に次のごとく国際会議参加の招請があり、協会専務理事の了承を得てクリープ委員会では積極的に推進する意向であることが報告された。とくに1973年に開催されるクリープカンファレンスは10年目ごとに開かれるもので、主導的立場のイギリス、アメリカの中に日本も参加することによりISOに対する発言権を有することで有意義であることが強調された。

- (1) 高温熱疲労国際会議 (1972.6)

ASME, ASTM 共催

- (2) クリープ国際会議 (1973年中)

ASME, ASTM, IMI 共催

ほかに1972年9月にHTACに関しAIME主催の国際会議のあることが報告された。

第2回金材技研クリープデータ連絡分科会 開催日: 11月25日。出席者: 田中主査ほか9名

1. 金材技研におけるデータシート作成作業の近況報告

当クリープ委員会が41年度以降44年度までに要望した鋼種に関し、板材関係(6鋼種)、管材関係(11鋼種)、鍛圧材(4鋼種)、鋳造品(2鋼種)および耐熱合金(8鋼種)、合計32鋼種、241チャージが試験実施中で、そのうち1部についてはすでに1万時間以上の長時間試験が行なわれていることが述べられた。

2. 昭和46年度に着手を希望する要望鋼種の選定に関する基本方針についての検討

はじめに、金材技研における計画は、毎年2鋼種程度としたいことが述べられた。

審議に入るに先立ち、(1)昭和43年に行なつたアンケートの結果(すでに採択された鋼種を除く)(イ)Bランク5鋼種、(ロ)上記以外の鋼種10鋼種、(2)各年度においてAクラスまたはBクラスにランクされ、または話題になりながらこれまでに採用されなかつた鋼種

昭和41年度(Aクラス)3鋼種

〃 41年度(Bクラス)4 〃

〃 42年度(Aクラス)3 〃

昭和42年度(Bクラス)6鋼種

〃 43年度(Aクラス)3 〃

〃 44年度(Bクラス)6 〃

計 25 〃

が話題に上つた。以上について協議の結果、今回アンケートを取ることを決定し、そのアンケートの取り方について検討が行なわれ、主査の手元において依頼文の原稿を作成し、クリープ委員会技術部会の会社関係にだすことが決定された。

標準試料委員会

第34回委員会 開催日: 12月17日。出席者: 池野委員長ほか19名

1. 標準試料の分譲状況報告

2. 追加製造予定報告

昭和46年度末までの試料の製造予定を立て、在庫切れなどをできるだけなくすよう努力することとした。

3. 水素分析用標準試料について

製造法などにつき神戸製鋼より説明があつた。

4. 標準化試料について

今後追加製造する標準化試料について、成分その他について発光分光分析分科会より要望が出され、今後考慮することとした。

4. FSi中のSi分析について

分析値に若干バラツキがあるので分析方法につき、フェロアロイ協会にて検討することとした。

JMTR 利用委員会

第16回委員会 開催日: 12月15日。出席者: 長谷川委員長ほか21名

1. JMTRの運転の現状報告

JMTRの現状の運転状況が原研より報告された。

2. 照射料金体系について

原研よりJMTRの使用料金について説明があつた。

3. 照射後試験について

現在までの各社の試料の試験状況およびその後の予定が説明された。

4. PC鋼線小委員会報告

試験機の費用および試験機の改良点について小委員会で検討した事項が報告された。

材料研究準備委員会

第1回委員会 開催日: 11月26日。出席者: 大竹委員長ほか11名

1. 当委員会の運営内規について審議

2. 幹事長および幹事の選出

3. 当面取りあげるテーマとして

「焼き戻し脆性」を主テーマとすることを決定

資料委員会

第6回委員会 開催日: 11月6日。出席者: 草川委員長ほか11名

1. 資料委員会配付資料として“日本鉄鋼協会”会議

案内”については各社とも役立つので今後も掲載するが、“国際会議案内”については、今後掲載しないことにした。

2. カタログを各社に依頼するときは、収集の主旨、カタログNo. をリストする。宛先の検討などして、多方面の会社のカタログ収集に努力することにした。

3. BISI の translation の更新にあたって、来年度より分類方法が 22 分類から 20 分類に変更することになり、また価格が 1/3 程度上がるので、各社検討して次回までまとめて、ISI に報告することにした。

4. “鉄鋼技術専門センター” 設立については各社の意見を総括してから準備委員会の設立にこぎつけたい。

5. 図書購入については、① グメリング、② ASM Series 本、③ 学界の Special Report など見積り書をとって必要なものは至急購入することにした。

鉄鋼基礎共同研究会

遅れ破壊部会

第 6 回部会 開催日：12月17日。出席者：藤田部会長ほか 12 名

1. 研究発表

(1) 水素による内耗のピークについて

添野委員 (日立)

鉄中での水素によるスネークピーク、コールドワークピークについての文献紹介などが行な

われた。

(2) 純鉄および Fe-3%Si 合金の水素脆性について
中井委員 (名工大)

金属表面からの水素放出、S-S カーブに及ぼす水素の効果、粒度と水素脆化などについて報告された。

2. 委員追加

新たに三村、寺崎、蒲地、北島氏を委員として追加することとした。

再結晶部会

第 2 回部会 開催日：11月24日。出席者：阿部部会長ほか 37 名

11月24日に本郷学会館で次の講演について活発な討論を開催した。

1. 純鉄の再結晶について 日本鋼管技研 稲垣裕輔

2. 低炭素リムド鋼板の最終焼鈍における結晶粒成長
東大工 阿部秀夫、高木甲子雄、板山克広

3. 低炭素鋼板の集合組織に及ぼす炭化物の影響
神戸製鋼中研 小久保一郎、須藤正俊、亀野

4. 自申討論：冷間圧延前結晶粒度が低炭素鋼板の集合組織に及ぼす効果について

導入講演：低炭素鋼の冷延焼鈍板の (222) 方位に及ぼす圧延前フェライト結晶粒度の影響

東大工 木原諄二

日本鉄鋼協会原稿用紙価格変更のお知らせ

本会会誌「鉄と鋼」へ投稿される場合は本会所定の原稿用紙で投稿することになっております。原稿用紙(450字詰)は 30 枚綴 30 円で市販していましたが、このたび 50 枚綴 70 円で市販することになりましたので、お知らせいたします。また送料は下記のとおりでございますので、送料を添えてお申し込み下さい。

記

送 料

1 冊 (18g) : 55円 2 冊 : 95円 3 ~ 5 冊 : 200円

6 ~ 10 冊 (2 kg) } 下記表をご参照下さい。
11 ~ 21 冊 (4 kg) }
22 ~ 32 冊 (6 kg) }

			2 kg	4 kg	6 kg
都 内	都内 23 区		70円	90円	110円
第 一	山宮福茨千栃都埼群山長石富新神静愛岐滋三 形城島城葉木下玉馬梨野川山渦川岡知阜賀重		120〃	150〃	180〃
第 二	青秋岩福京和 大奈兵岡鳥島広徳高香愛 森田手井都山阪良庫山取根島島知川媛		160〃	200〃	240〃
第 三	北山鹿福熊大宮佐長 海道見 岡本分崎賀崎		230〃	280〃	330〃

申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
社団法人 日本鉄鋼協会 庶務課 Tel. (03) 279-6021(代表)

新 入 会 員 氏 名 (昭和45年10月1日~10月21日)

正 会 員		技術研究所		大阪外大, 留学生別科	
石黒 忠	新日本製鉄(株) 東京研究所	松岡 正雄	山里エレクトロナイト (株)	山下 達雄	東北大工 金属加工学科
南野 繁	〃 光製鉄所	西宮 誠	石川島播磨重工業(株)	柳沢 健	東北大院 工学研究科
木村 和夫	〃 工作本部	柴田 洋臣	光和精鉱(株)戸畑工場	福重 信雄	鉄鋼短大 鉄鋼工学科
末宗賢一郎	八幡製鉄(株) 技術研究所	綾 和夫	(株)淀川製鋼所	永坂 憲治	日本工業大 機械工学科
山口 拓男	大同製鋼(株)知多工場	井上 晃	播磨耐火煉瓦(株)	宇野 直樹	熊本大工 金属工学科
渡辺 一雄	〃 中央研究所	浦地 一義	山口大学工学部	鶴田 泰彦	〃
本田 義弘	日立金属(株)本社	岸本 耕司	山陽特殊製鋼(株)	久保田修二	〃
渡辺栄一郎	住友金属工業(株) 和歌山製鉄所	田中 幹男	(株)山崎組	川上 善紀	〃
Vondran Ruprecht	西ドイツ鉄鋼連盟	中沢 邦男	光洋精工(株)羽村工場	岡 次明	〃
村岡 智機	日本精工(株)	本田 士郎	坂井化学工業(株)	尾宮 俊治	〃
		吉村 清	(株)鉄原		
		学 生 会 員			
		Fernandes G. Clement			

新 入 会 員 氏 名 (昭和45年11月1日~11月30日)

正 会 員		奈良 吉也		増田日出登	
浅川 広一	日本大学生産工学部	田辺 真也	〃	三好甲太郎	日独重工業(株)
岡本 篤樹	住友金属工業(株) 中央技術研	林 晴夫	日本鋼管(株)	房田 保	関東特殊製鋼(株)
片岡 守	大阪製鋼(株)	飯野 文吾	〃	藤沢 豊	(株)伊藤製鉄所
木村 求	川崎製鉄(株) 技術研究所	清水 巖	三菱重工(株)	宝代 明見	日新製鋼(株)呉製鉄所
工藤 赳夫	住友金属工業(株) 中央技術研	高橋 信夫	日新製鋼(株)	山中 和夫	住友金属工業(株)中研
佐直 康則	新日本製鉄(株) 名古屋製鉄所	高見 恭和	山陽特殊製鋼(株)	渡辺 修	東京芝浦電機(株)
鈴木 洋夫	〃 東京研究所	谷口 昭	小山鑄造(株)	柴田 守	東工大工金工院
志垣 一郎	(株)神戸製鋼所	中川 雅由	大同酸素(株)	学 生 会 員	
田中 福輝	〃	西沢 庄蔵	住友金属工業(株) 和歌山製鉄所	外 国 会 員	
				Royal Melbourne Institute of Technology (Australia)	
				Dr.-Ing. Zixang Yun (Germany)	

F. C. Frank 教授 (英国ブリストル大学) 講演会

下記のように Frank 教授の講演会を開催いたしますので、多数ご聴講下さるようご案内申し上げます。

題 目 ダイヤモンドの格子欠陥と天然ダイヤモンド形成過程におけるその役割
 日 時 1971年3月25日(木) 15:00~17:00
 場 所 東大物性研究所
 主 催 結晶成長小委員会(日本学術会議結晶研連内) および東大物性研究所

日本水質汚濁研究会の設立について

水質汚濁が全世界の重要問題となつてきましたため、さきに国際水質汚濁研究協会 IAWPR が設立され研究活動が行なわれておりますが、これに対するわが国の代表機関としてこのほど日本水質汚濁研究会が設立されることとなり「この問題に関心のある方の入会を歓迎しています。同研究会の年間会費は個人 8000 円、賛助会員 50,000 円で会員は IAWPR に登録され、その機関紙 Water Research が配布されます。詳細は下記へお問合せ下さい。

〒 102 東京都千代田区平河町2の6麴町会館 日本下水道協会内
 日本水質汚濁研究会設立準備委員会 電話 東京 261-6986~7